

## 第 53 回 官の幹事会

日時 : 2009 年 7 月 30 日 (水) 8 : 30 ~ 9 : 30

場所 : 財務省 4 階国際会議室 (南 434)

議題 : I. 第 3 回 21 世紀漢方フォーラム  
II. 中国マクロ経済研究者のインタビュー  
III. 中国の環境保護産業の現状調査  
IV. 第 1 回検討会 (ブレスト) メモ  
V. 「アジア問題協議会」の設置  
VI. 今後のスケジュール

出席者 : 齋藤 圭介 (経済産業省官房会計課長)  
坂本 純 (厚生労働省大臣官房厚生科学課研究企画官)  
染野 憲治 (環境省地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室長)  
高見 博 (財務省国際局開発企画官)  
田中 修 (財務省財務総合政策研究所研究部長)  
中井徳太郎 (人事院給与局給与第二課長)  
本郷 浩二 (林野庁国有林野部業務課長)  
渡辺 賢治 (慶應義塾大学医学部漢方医学センター長)  
渡辺 泰司 (内閣府日本学術会議事務局参事官 (審議第二担当))

### [機構役員]

保田 博 (関西電力顧問、機構副理事長)  
伏見 泰治 (ツネイシホールディングス会長)

### [事務局]

木村 憲 (日中産学官交流機構常任幹事)  
坂田 泰文 (日中産学官交流機構幹事)  
秦 陽一 (ものづくり生命文明機構理事)  
橋田 坦 (日中産学官交流機構特別研究員)  
柳瀬 豊昭 (日中産学官交流機構事務局長)

(以上、16 名、敬称略、50 音順)

## I. 第3回 21世紀漢方フォーラム「漢方の国際医療情報を考える」のご案内

漢方医学をめぐるホットなトピックを取り上げて行う21世紀漢方フォーラムですが、今回は3回目となります。第1回「生薬資源を考える」では、多くの反響をいただき、その後漢方生薬原料の国内栽培を推進する一つのきっかけとなりました。

第2回「総合医の漢方を考える」は、三プライマリ・ケア学会代表ならびに日本東洋医学会会長をお招きし、これからの医療社会に必要とされる総合医の教育に漢方医学をいかに盛り込むか、について皆で考えました。これも大きな反響を頂戴致しました。詳細は健康医療開発機構のHPをご覧ください。<http://www.tr-networks.org/>

今回は漢方医学の医療情報をめぐる国際情勢がめまぐるしく変化する中で、「漢方の国際医療情報を考える」を開催することにいたします。

東アジア伝統医学はもはやわが国だけのものに止まらず、世界から注目されています。そうした中で、中国、韓国は国策として伝統医学の海外進出を推進しておりますが、わが国ではまだ漢方医学の海外発信が十分になされていないとはいえない状況にあります。

その一つの理由は漢方行政を取り仕切る、独立した国の機関が存在しないため、海外からの種々の要求に対応しきれていない、ということがあげられます。中国には専門機関に数十名の専従行政官がおり、韓国にも十数名の専従政府職員が存在します。

このような体制の中で、東アジア伝統医学の国際化が推進されており、種々の問題が生じてきております。

WHOでは国際疾病分類の改訂作業に東アジア伝統医学を入れることを検討しており、その一方で、国際化標準化機構（ISO）では、中医学のみの委員会を立ち上げようという提案がなされております。

今回はこうした国際的な動向を共有した上で、わが国伝統医学の国際化をどのように推進すべきかについて検討したいと思います。

ご多忙とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご参加下さいますようお願い申し上げます。

慶應義塾大学医学部漢方医学センター・  
健康医療開発機構・  
日中産学官交流機構  
医療志民の会  
共催

### 第3回 21世紀漢方フォーラム「漢方の医療情報を考える」

日時： 2009年7月31日（金）午後6時～8時半

場所： 慶應義塾大学医学部（信濃町）東校舎講堂

<http://www.sc.keio.ac.jp/campus.html> ←キャンパスマップ No.24 の建物2階  
です)

#### プログラム：

挨拶 末松誠（慶應義塾大学医学部長）

- ・ 基調講演Ⅰ： 瀧村佳代（厚生労働省大臣官房統計情報部ICD室長）  
「WHO ICD改訂作業」
- ・ 基調講演Ⅱ： 渡辺賢治（慶應義塾大学医学部漢方医学センター長）  
「WHO ICD11 改訂作業の中での伝統医学」
- ・ 基調講演Ⅲ： 小倉悟（経済産業省産業技術環境局環境生活標準化推進室  
課長補佐）  
「ISOの仕組みと国際戦略」
- ・ 基調講演Ⅳ： 厚生労働省研究開発課  
井本 昌克  
「WHO、ISOへの対応とわが国の伝統医学の戦略」

#### パネルディスカッション：

進行： 渡辺泰司（内閣府日本学術会議参事官）、

宮野悟（東京大学医科学研究所教授）

- ・ 木戸寛孝 医療志民の会事務局長
- ・ 寺澤捷年 日本東洋医学会 会長
- ・ 日本漢方生薬製剤協会
- ・ 神田善明 セイリン株式会社

参加ご希望の方は健康医療開発機構事務局（[jimu@tr-networks.org](mailto:jimu@tr-networks.org)）までご連絡下さい。

## II. 中国マクロ経済研究者へのインタビュー (JBIC 委託)

国際協力銀行 (JBIC) の委託で中国のマクロ経済研究者へのインタビューを実施した。  
(6月9日～13日)

### インタビューしたマクロ経済研究者

王小広 発展改革委員会マクロ経済研究院 経済研究所 主任研究員  
李稻葵 清華大学 中国と世界経済研究中心 主任  
袁鋼明 清華大学 中国と世界経済研究中心 研究員 (社会科学院兼務)  
白景明 財政部 財政科学研究所副所長  
余永定 社会科学院 世界経済政治研究所長  
李煒光 天津財経大学財政学科首席教授 (財政科学研究所賈康所長の紹介)

### 了解を得たが都合がつかなかった方

魏加寧 国務院発展研究中心 マクロ経済研究部副部長  
張立群 国務院発展研究中心 マクロ経済研究部 第一研究室主任  
賈 康 財政部 財政科学研究所所長

### インタビューのポイント (抜粋)

- ・市場経済一辺倒の見直し反省はすでに危機以前から進んでいる。しかし、市場経済を否定するものではない。
- ・97年アジア金融危機の教訓で金融規制が強固で、今回の金融危機の直接的な影響は少ない。
- ・今回の中国の景気後退は、物価対策の引き締め行き過ぎによるものである。
- ・景気対策は大手国有企業偏重で民営企業、中小企業には資金が回っていない。
- ・外貨準備は米国債が基本だが、若干の多様化はあり得る。
- ・経済の発展モデルとして日本に見習うべき点が多い。

以上

## III. 中国の環境保護産業の現状調査

提案者： 中国国務院発展研究中心 産業経済研究部 馮飛部長  
企画提出先： 国際協力銀行 環境支援室  
協力者： ㈱KRI

### 中国側希望

- 1) 目的  
環境保護産業 (大気、水、固形物汚染の処理技術と製品) の調査。今回の調査では主要汚染物と排出削減目標に関して、重点的に選択する幾つかの環境保護技術を対象とし、主要エネルギー消費工業と排出汚染が著しい産業にたいしての必要技術のリストを作成したい。大気汚染では、脱硫、脱窒素と二酸化炭素の処理技術、汚水処理は膜技術、固形汚染物はゴミ発電など。処理技術だけでなく、省エネ、グリーンエネルギー使用分野の技術も重視。
- 2) 第12五計の目標との関連：同目標との関連性はある。然しながら、主たる目標は、中国環境保護産業の発展促進であり、中日首脳間で合意された環境領域における協力の一環となる。互惠の Win-Win 関係の実現を目指す。
- 3) 調査領域：広東、浙江、山東と内地の某省。調査項目の重点技術の確定如何によっては若干の調整はあり得る。
- 4) 調査方式は、地方政府よりのヒアリングおよび企業訪問による。

### 日本側事情

- 1) JBIC の立場として、日本の企業の中国進出に寄与する調査でなければならない。
- 2) 興味あるテーマとしては、日本からの製品・設備輸出につながる分野で、脱硝装置、水分離回収装置、計測分析器、汚泥処理設備、廃棄物焼却発電装置などの市場調査
- 3) 地域的には、網羅的な調査ではなく、ケーススタディ的な地域を限定でいい。

以上

#### IV. 第1回検討会（プレスト）メモ

日時：6月24日（水）8：30～10：00

場所：人事院

出席者：経産省 神田審査官、経産省 齋藤課長、環境省 染野室長、財総研 田中部長、  
人事院 中井課長、JCIF 西沢部長、内閣府 渡辺氏  
日中機構 橋田、木村、坂田、柳瀬

議事：次の三次元の課題に対して、フリーな討議（プレスト）

1. 機構の将来の発展方向に関する検討
2. 機構の取り組むべきテーマ
3. 機構五周年事業と経済・金融分野の取り組み

メモ：

- ・カウンターパートの安定化、属人的な交流の限界  
→取り組み課題が多岐に亘り、特定のカウンターパートに固定はできない。  
→発展改革委員会のパイプは維持、強化する。産業発展促進会は実績に結びつける。国務院発展研究中心、社会科学院との交流を強化する。  
→交流ネットワークを属人的（個人的）、組織的の二段構えで構築する。
- ・北京（中央政府）のみでなく、地理的な活動の幅を広げる。  
例えば、地方政府、東北地方、現場に近いところとの交流、あるいは中華圏、第五世代に焦点を当てる。  
→江蘇省との交流活性化、天津亜太発展研究中心との交流。
- ・官官交流、学学交流は進んでいる。産をどう絡めるかが課題。  
→中国はウルトラ官僚国家なので、産の姿が見えないので、どう絡めるかが難問。  
→産の期待は直接利益に結びつくようなものではなく、中国でのビジネス環境整備に結びつくもの、あるいは国際貢献的な視点で会員加入している。
- ・マクロ経済を日中間で、本音で議論する場づくり。
- ・アジア問題協議会の提案。（次ページ）

以上

#### 1. 趣旨

地球規模での食料・エネルギー・環境問題が顕在化している今日、これまでの大量生産・大量消費の物質文明から、地球環境・生態系と調和する持続可能な文明に転換できるかが、人類の存亡に関わる重要課題となっている。それは取りも直さず、世界の人口の約半分を占めるアジアの民が持続可能なライフスタイルを手中にすることができるかどうか鍵となっている。

日本人の縄文や稲作漁労に淵源を持つ自然観・生命観、また江戸時代の循環型の暮らしを支えた価値観は、今日求められている循環・共生型のライフスタイルにヒントを与えるものであり、アジアの文化は多様と言われるが、地球環境・生態系と調和する循環・共生型の価値観は、広くアジアに共通するものであり、そこを手がかりに、文化の多様さに積極的な価値を置きつつ、アジアの民が21世紀に持続可能なライフスタイルを獲得する方策を、アジア規模で検討する。

また、新しいパラダイムを具体化していく上では、いわゆる南北の所得の再分配をどう行い、アジア全体としてのサステナビリティを如何に実現していくかということも検討していかななくてはならない。

検討に際しては、これまでの主権国家間の調整・交渉を前提とする上からのアプローチにとらわれず、循環・共生型の価値観を共有するアジアベースでの産学官、民のローカルなネットワークの形成を視野に置く。

#### 2. 検討事項

- ・ アジアの人口、食料、エネルギー問題（20年後）
- ・ 成長の限界の処方箋と世界的所得再配分のあり方
- ・ オルタナティブな社会実験事例の研究（キューバアプローチ）
- ・ その他

#### 3. 検討体制

協議会会長： 高木勇樹 日中産学官交流機構理事

メンバー： 産学官有志

## V. 今後のスケジュール

- 7月7日（火） 18：00～19：30 第11回環境・エネルギー研究会 於九段ビル  
テーマ：「中国の河川・海洋汚染とその影響」  
講師：渡邊 正孝 氏（慶應義塾大学環境情報学部教授）
- 7月10日（金） 17：00～19：00 ロボット研究部会 於九段ビル
- 7月13日（月） 12：00～14：00 第44回中国セミナー 於九段ビル  
テーマ：「中国の景気動向と今後の見通し」  
講師：関 志雄 氏（野村資本市場研究所主任研究員）
- 7月30日（木） 31日（金） 発展改革委員会副秘書長 楊偉民氏 来東京（予定）
- 8月28日（水） 8：30～9：30 官の幹事会 於財務省